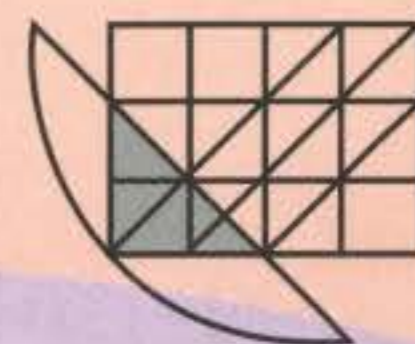


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.6

2001.3.31

平成13年(2001年)度の特別展

特別展 鞆淵八幡と鞆淵荘 (仮題)

■2001年10月6日(土)~11月25日(日)



特別展 信仰と美術 (仮題)

■2002年1月12日~2月10日

特別陳列

「きのくにの文化財2001」

会期Ⅱ平成一三年四月二十八日(土)～五月二七日(日)
(月曜休館、ただし四月三〇日は開館、五月一日休館)

和歌山県立博物館では、日常の資料収集活動として、館蔵品の購入・受贈や、文化財保護のための資料寄託の促進を行っています。今回の特別陳列では、こうした資料のうち、和歌山県の歴史・文化を物語る優品を展示して、県内外に紹介することを目的としています。

《主な展示予定資料》

- ・重要文化財 木造地藏菩薩坐像 (歓喜寺蔵)
- ・重要文化財 絹本着色仏涅槃図 (長保寺蔵)
- ・県指定文化財 元丹生大明神社大般若経 (安楽寺蔵)
- ・「赤羽刀」(館蔵品、文化庁から移管)

◆常設展の料金で、入館できます。

◆五月六日(日)・二〇日(日)いずれも一・二時より、会場でミュージアムトークを行います。



重要文化財 絹本着色仏涅槃図 長保寺蔵

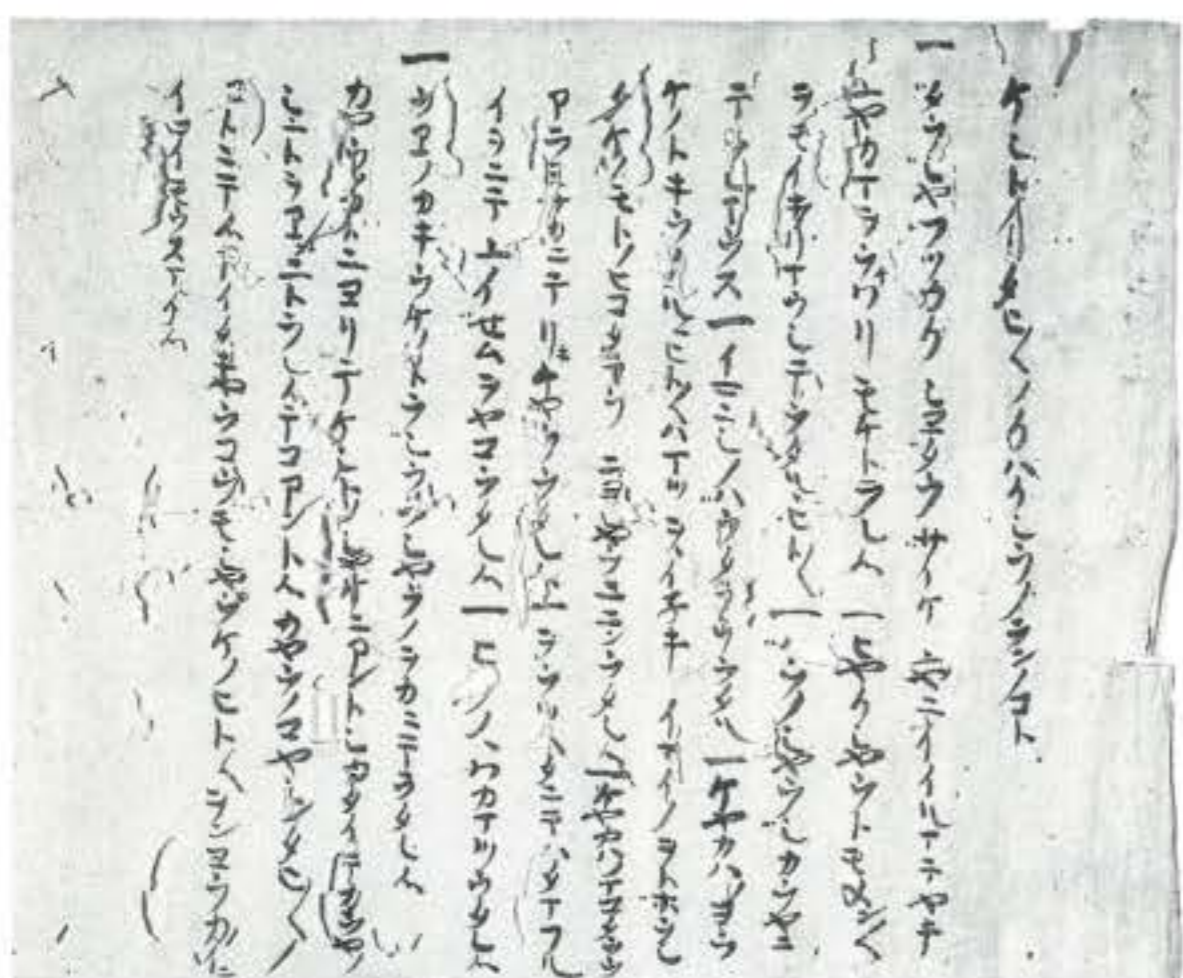
特別展

鞆淵八幡と鞆淵荘 (仮題)

会期Ⅱ平成一三年(二〇〇二年)一〇月六日(土)～一二月二五日(日)

鞆淵八幡神社は、国宝「沃懸地螺鈿金銅装神輿」や重要文化財の本殿・大日堂に象徴されるように、数多くのすぐれた文化財を所蔵することで、全国にその名を知られています。またこの地域は、「鞆淵八幡神社文書」や「高野山文書」の存在により、南北朝時代から室町時代にかけての住民の自治組織〈惣〉の発達のありさまを具体的に明らかにできる希有な事例として、古くから学界の注目を集めてきました。さらに最近では、景観や伝承のなかに、中世まで遡る情報が残されていることも明らかになりつつあります。

この特別展は、鞆淵八幡神社・鞆淵地区に伝わる文化財の詳細な調査を実施し、その全貌を県内外の方々に公開しようとするものです。それを通じて、鞆淵の豊かな歴史と文化を広く紹介していきたいと思えます。



鞆淵惣荘置文 鞆淵八幡神社蔵



国宝 沃懸地螺鈿金銅装神輿 鞆淵八幡神社蔵

主催/和歌山県立博物館
協賛等/協賛 粉河町

協力 粉河町教育委員会

会期/平成一三年(二〇〇二年)一〇月六日(土)～一二月二五日(日)

会場/和歌山県立博物館 常設展示室(四〇〇㎡)

企画展示室(四〇〇㎡)

入館料/一般Ⅱ八一〇円(六六〇円)

高校生・大学生Ⅱ五一〇円(四〇〇円)

小学生・中学生Ⅱ二六〇円(二一〇円)

※(一)内は二〇名以上の団体料金

※障害者・高齢者(六五才以上)は無料

その他/会期中、民俗芸能の上演やシンポジウム、講演会等を開催する。

スポットライト・博物館 No.6

文化財情報コーナー

博物館2階にある文化財情報コーナーでは、和歌山県や日本の歴史・美術に関する本やビデオを置いて、来館者に利用していただいています。このたび、このコーナーにコンピュータを2台設置し、館藏品と県内文化財の情報を自由に検索することができるようになりました。

一般的に、文化財は長い時間を経て現在に伝わってきたものなので、非常に傷みやすく、長期間展示することはできません。また、展示室の大きさには限界があり、一度に多くの文化財を公開することは不可能です。文化財の保存を考えながら、その情報を常時公開する一つの手段として、博物館ではこのような機器・ソフトを4年間かけて開発・整備してきました。

このコンピュータは、画面にふれることで簡単に操作できるタッチパネル式になっています。最初の画面では、「博物館の文化財」と「きのくにの文化財」のどちらかを選ぶようになっています。「博物館の文化財」では、館藏品を8つの種類に分け、それぞれの資料の情報（解説や写真を見ることができます）にたどりつけるようになっています。「きのくにの文化財」を選ぶと、「文化財の指定種別」（国宝・重要文化財など）・「文化財がある地域」（県内を8つの地域に分けています）という二つのキーを組み合わせ検索し、国・県・市町村指定文化財のリストを見ることができます。

このコンピュータ端末を利用して、館藏品と県内の文化財の豊富さを味わっていただければ幸いです。

特別展

「信仰と美術」(仮題)

会期 平成一四年一月二二日(土)～二月一〇日(日)

文化庁の主唱により、国立博物館・美術館の所蔵する優れた文化財を展示する巡回展です。日本美術史の中で大きな比重を占める宗教美術を主題として、古墳時代から近代に至る時期の文化財が展示される予定です。

◆主催／文化庁・東京国立博物館・奈良国立博物館・東京国立近代美術館・京都国立近代美術館・和歌山県立博物館

◆料金／一般 810円 (660円)

高校生・大学生 510円 (400円)

小学生・中学生 260円 (210円)

※()内は20名以上の団体料金

※障害者・高齢者(六五才以上)は無料



博物館講座

開催の記録と予定

【平成一三年度開催】

第一回/五月二三日「南紀と芦雪」

東京国立博物館学芸部長 宮島新一
(特別展「芦雪」)

第二回/五月一四日「芦雪の動物表現」

和歌山県教育庁文化財課世界遺産登録推進
準備室主任 小田誠太郎(特別展「芦雪」)

第三回/九月三日「祈りの造形」

当館主幹 菅原正明

第四回/一〇月八日「紀州藩初代藩主徳川頼宣とその時代」当館学芸員 前田正明

(特別展「葵 徳川三代」)

第五回/一〇月二二日「遺品にみる徳川家康の人間像」財団法人 徳川黎明会徳川美術館副館長 山本泰一 (特別展「葵 徳川三代」)

第六回/一〇月五日「近世初頭の建築装飾と文化財修理」和歌浦東照宮の修理を通して」

財団法人和歌山県文化財センター建造物課副主査 多井忠嗣(特別展「葵 徳川三代」)

第七回/五月「きのくにの建築装飾」財団法人和歌山県文化財センター建造物課長 鳴海祥博

第八回/六月「インドにおける仏教寺院の形成」

当館主幹 菅原正明

第九回/九月「中世の鞍淵荘について(仮)」

高野山大学教授 山陰加春夫

第一〇回/一〇月「シンポジウム―歴史の中の」とも

ぶち「」

第一一回/一〇月「鞍淵・大善寺の大般若経(仮)」

当館学芸員 竹中康彦

第二二回/一〇月「鞍淵荘の仏像(仮)」

当館学芸員 大河内智之

第二三回/一〇月「絵図からみた鞍淵荘(仮)」

当館学芸員 前田正明

第二四回/一〇月「祈りの美(仮)」未定

第一四回/一月「祈りの美(仮)」未定

第一三回/一月「祈りの美(仮)」未定

第一二回/一月「祈りの美(仮)」未定

第一一回/一月「祈りの美(仮)」未定

第一〇回/一月「祈りの美(仮)」未定

第九回/一月「祈りの美(仮)」未定

第八回/一月「祈りの美(仮)」未定

第七回/一月「祈りの美(仮)」未定

◎紀州熊野浦捕鯨図屏風

六曲一隻
紙本著色

縦一二三・九 横三四〇・三

江戸後期

太地浦を中心に、串本から木ノ本浦（三重県熊野市）までの熊野灘沿岸の景観と沖合での捕鯨の様子を描いた屏風絵です。

紀州における捕鯨業の中心地であった熊野灘付近には、古座組・太地組・三輪崎組という三つの捕鯨組織（鯨方・鯨組）が作られ、それぞれの網代場（鯨漁場）が決められていました。この屏風絵では、太地組の網代場を中心に描かれています。左下に描かれた太地浦付近では、太地一族の氏神であった飛鳥社を始め、浜で鯨が解体されている様子、番所・大納屋・網納屋などの関連施設が詳細に描かれています。また、沖合いにいる鯨をいち早く発見し伝達するための山見や狼煙場や海上にある島や岩礁なども網羅的に描かれています。

熊野灘付近では、海流に乗って回遊してきた鯨を、浅瀬に追い込んで捕える漁法が江戸時代以前から行われていました。江戸時代になると、二〇艘前後の船団で兎鯨などを追い、鉾で突いて捕獲する突取法が取り入れられました。しかし、この方法では大きな鯨や俊敏な鯨を取り逃がすことが多かったため、やがて網を使って鯨の行動範囲を狭め、これに突取法を併用する網取法が盛んに行われるようになりました。

この屏風絵では、様々な方法で鯨を捕鯨している様子が描かれています。例えば、左上の熊野川河口付近では突取法で兎鯨を、中央下の灯明崎付近では網取法でさとう鯨を捕獲している様子が描かれています。三輪崎と太地の鯨船が共同で背美鯨を追う姿も描かれています。三輪崎の鯨船が太地の漁場に入漁できるようにするのは文政九年（一八二六）以降のことといわれています。江戸時代に熊野灘付近で捕鯨業が盛んになった背景として、この付近が古くから熊野水軍の活動舞台であったことも関係するようです。



博物館の利用案内

開館時間 午前九時三〇分～午後五時

休館日 (入館は午後四時三〇分まで)

・月曜日

(月曜日が祝日の場合はその翌日)

・臨時休館日

駐車場

九〇台収容

有料(二時間以内四〇〇円、以後三〇分ごと

に一〇〇円追加)

(バスを駐車するスペースもあります)

・学校行事(遠足など)・授業でのご利用の場合、常設展については、ティーチャーズガイドと生徒用ワークシートを用意しておりますので、ご来館の前にあらかじめご連絡・ご相談ください。

入館料

個人 団体

一般 (特別展) 八一〇円 六六〇円

(企画展) 六一〇円 四九〇円

(常設展) 二六〇円 二一〇円

高校生・大学生 (特別展) 五一〇円 四〇〇円

(企画展) 四〇〇円 三三〇円

(常設展) 一五〇円 一二〇円

小学生・中学生 (特別展) 二六〇円 二一〇円

(企画展) 二一〇円 一六〇円

(常設展) 一〇〇円 八〇円

・団体は二〇人以上です。そのうち、引率者は無料です。
・六五歳以上の方と障害者の方は無料です。(受付で証明書などを提示して申し出てください)

和歌山県立博物館友の会

◆◆◆会員募集のお知らせ◆◆◆

県立博物館では、友の会会員を募集しています。常設展・特別展を無料で観賞できるほか、色々な特典があります。年会費は、一般会員が三、〇〇〇円、賛助会員が六、〇〇〇円です。

申込み・問い合わせは、和歌山県立博物館友の会事務局まで。(☎〇七三ー四三六ー八六七〇)

和歌山県立博物館 博物館だより 第六号

発行日 平成一三(二〇〇一)年三月三十一日

編集 和歌山県立博物館

〒六四〇一八一三七 和歌山市吹上二丁目四番一四号

TEL (〇七三) 四三六ー八六七〇

http://www.wakayama.go.jp/hakubutu.html